

令和3年度

病害虫発生予察情報

第20号

8月月報

北海道病害虫防除所 令和3年(2021年)9月15日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

一月のはじめは猛暑日を観測も中旬はかなりの低温。9～10日は記録的大雨の所も。－

8月上旬は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日もあったが、湿った気流や大気の状態が不安定となり雨の降った日もあった。特に、9日から10日にかけては、台風第9号から変わった低気圧の影響により全道的に雨が降り、オホーツク海側と太平洋側では記録的な大雨となった所があった。中旬は、高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多かったが、オホーツク海からの冷たい気流の影響で気温は平年よりかなり低く、上旬から中旬にかけて気温の変動が大きかった。下旬は、高気圧の張り出しの中で晴れた日もあったが、気圧の谷や大気の状態が不安定となり太平洋側を中心に雨の降った日が多かった。日本海側北部では、期間を通して低気圧の影響を受けにくかったため、降水量は平年よりかなり少なかった。気温は、上旬と下旬は平年より高かったが、中旬はかなり低く、月平均気温は平年並だった。降水量は、上旬は平年より多かったが、中旬と下旬は少なく、月降水量は平年並だった。日照時間は、中旬と下旬は平年より多く、月間日照時間は多かった。

上旬

1～2日:前線や低気圧の影響でオホーツク海側と太平洋側を中心に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は1日に広尾で119.5mmなど。3～5日:高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、気圧の谷の中で大気の状態が不安定となり雨の降った所もあった。日降水量は4日に長沼で92.5mmなど。6日:高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。7日:気圧の尾根の中で概ね晴れたが、大気の状態が不安定となり雨の降った所もあった。日降水量は美瑛町原野5線で78.5mmなど。8日:気圧の谷の中で大気の状態が不安定となり雨の降った所が多かったが、晴れた所もあった。日降水量は登別市カルルスで70.5mmなど。9～10日:台風第9号から変わった低気圧の影響で全道的に雨が降り、オホーツク海側と太平洋側では大雨となった所があった。日降水量は9日に函館市戸井泊で193.0mm、10日に函館市川汲で150.0mmなど。

中旬

11日:はじめ低気圧の影響で雨の降った所が多かったが、次第に高気圧の張り出しの中となり晴れた。12～15日:高気圧の張り出しの中で日本海側やオホーツク海側では晴れた所が多かったが、太平洋側では気圧の谷や湿った気流の影響により雨の降った所があった。16日:気圧の谷の中で曇った所が多かった。17日:高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、太平洋側では湿った気流により雨の降った所があった。18日:前線を伴った低気圧の通過により、全道的に雨が降り、太平洋側西部では大雨となった所があった。日降水量は函館市戸井泊で108.5mmなど。19日:気圧の谷の中で昼頃まで雨の降った所が多かったが、次第に高気圧張り出しの中となり晴れた。20日:高気圧に覆われて全道的に晴れた。

下旬

21日:高気圧の張り出しの中で概ね晴れたが、低気圧の接近に伴い雨の降った所もあった。22日:はじめ高気圧の張り出しの中で日本海北部とオホーツク海側では晴れたが、前線を伴った低気圧の影響で日本海側南部と太平洋側西部では昼前から雨が降った。日降水量は福島町千軒で86.0mmなど。23日:気圧の谷の中で大気の状態が不安定となり雨の降った所があったが、日本海側では晴れた所もあった。日降水量は浦河町中杵臼で81.0mmなど。24日:大気の状態が不安定となって内陸を中心に雨が降り、夜には前線を伴った低気圧の接近により日本海側南部と太平洋側西部で雨が降った。25～26日:前線を伴った低気圧の影響により、北海道の広い範囲で雨が降り、太平洋側では大雨となった所もあった。日降水量は25日に釧路市音別町二俣で100.0mmなど。27日:気圧の谷の中で大気の状態が不安定となり雨の降った所が多かったが、オホーツク海側と太平洋側東部では晴れた所もあった。28日:はじめ気圧の谷の中で雨の降った所もあったが、次第に気圧の尾根の中となり晴れた所が多かった。29日:気圧の尾根の中で晴れた所が多かったが、気圧の谷の接近に伴い昼過ぎから雨の降った所もあった。30～31日:気圧の谷の中で大気の状態が不安定となり雨の降った所があったが、晴れた所もあった。日降水量は30日に上ノ国町石崎で53.5mmなど。

気候表(気温は平年差(°C)、降水量・日照時間・降雪量は比(%)を示す)

	気温偏差°C	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22 地点平均	+0.2	並	99	並	111	多
日本海側10 地点平均	+0.5	並	70	少	110	多
オホーツク海側4 地点平均	-0.2	並	98	並	125	多
太平洋側8 地点平均	+0.1	並	136	多	106	並

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
 なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(かーかなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稲

1. いもち病(葉いもち) 発生量 少

予察田の「きらら397」における葉いもちの発生量は、岩見沢市、北斗市では平年より少なく、比布町では平年よりやや少なかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査では、発生が認められなかった。

予察田における水稲の葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	15.1	0	17.0	0	20.5	10
	ななつぼし	0	27.8	0	31.4	0.5	36.9	10
比布町	きらら397	25.0	32.4	27.0	35.2	27.5	38.8	10
	ななつぼし	25.0	30.3	26.0	37.6	27.0	35.5	5
北斗市	きらら397	3.5	16.4	3.5	17.7	3.5	17.8	10

注)各予察田の窒素施肥量は慣行栽培の5割増

一般田における水稲の葉いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)		
			8月3半旬					8月3半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	7	0	0	渡島	本所	3	0	0	
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	0			北部	2	0	0
	中空知	4	0	0		上川	本所	7	0	0
	北空知	7	0	0			富良野	2	0	0
石狩	本所	3	0	0	大雪		4	0	0	
	北部	7	0	0	士別	2	0	0		
後志	本所	4	0	0	名寄	3	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	4	0	0	
日高	西部	3	0	0		南留萌	2	0	0	

いもち病（穂いもち・節いもち） 発生期 並 発生量 少

予察田の「きらら397」における枝稷いもちの初発期は、岩見沢市では平年よりやや遅く、比布町では平年よりやや早く、北斗市では平年並だった。首いもちの初発期は、岩見沢市では平年より遅く、比布町では平年並、北斗市では平年よりやや早かった。節いもちの初発期は、岩見沢市では平年より遅く、比布町では平年よりやや早く、北斗市では平年並であった。

「きらら397」における穂いもちの発生量は、岩見沢市、比布町、北斗市いずれの地点においても枝稷いもち及び首いもちともに平年より少なかった。「きらら397」における節いもちの発生量は、岩見沢市、比布町、北斗市いずれの地点においても平年より少なかった。

一般田における8月6半旬の巡回調査では、穂いもちの発生は認められなかった。

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの初発期

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		枝稷いもち		首いもち		本年	平年	
		本年	平年	本年	平年			
岩見沢市	きらら397	8月19日	8月14日	8月26日	8月17日	9月6日	8月21日	10
	ななつぼし	8月19日	8月13日	8月24日	8月17日	9月6日	8月18日	10
比布町	きらら397	8月2日	8月6日	8月10日	8月10日	8月10日	8月14日	10
	ななつぼし	8月2日	8月8日	8月10日	8月12日	8月12日	8月14日	5
北斗市	きらら397	8月10日	8月10日	8月11日	8月15日	8月23日	8月24日	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		発病枝稷率(%)		発病首率(%)		発病莖率(%)		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0.2	20.8	0.1	8.6	0	6.3	10
	ななつぼし	0.4	25.0	0.1	24.7	0	14.8	10
比布町	きらら397	5.4	26.3	1.0	18.5	0.5	4.8	10
	ななつぼし	8.6	25.9	1.2	6.7	0.3	2.9	5
北斗市	きらら397	2.9	21.6	0.4	15.6	0.2	3.6	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田における水稻の穂いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	発病穂率(%)		普及センター		地点数	発病穂率(%)		
			8月6半旬					8月6半旬		
			本年	前年				本年	前年	
空知	本所	7	0	0	渡島	本所	3	0	0	
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0	0			北部	2	0	0
	中空知	4	0	0		上川	本所	7	0	0
	北空知	7	0	0			富良野	2	0	0
石狩	本所	3	0	0	大雪		4	0	0	
	北部	7	0	0	士別	2	0	0		
後志	本所	4	0	0	名寄	3	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	4	0	0	
日高	西部	3	0	0		南留萌	2	0	0	

2. 紋枯病 発生期 やや早 発生量 並

予察田における初発期は、岩見沢市で平年より早く、北斗市で平年よりやや早かった。
発生量は、岩見沢市及び北斗市で平年並だった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	初発期		発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8月6日	8月13日	56.0	51.8	10.2	10.2	16.0	14.7	10
北斗市	きらら397	7月30日	8月2日	58.0	40.7	14.1	23.7	16.0	19.5	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. 葉しょう褐変病 発生量 少

予察田における発生量は比布町では平年より少なかった。岩見沢市では発生を認めていない。

予察田における水稻の葉しょう褐変病発生状況(8月2半旬)

地点	品種名	発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	29.0	0	2.5	0	9.0	10
比布町	きらら397	4.0	24.0	0.1	3.1	1.0	9.4	5

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

4. ウンカ類 発生量 ヒメトビウンカ：やや多、セジロウンカ：やや少

ヒメトビウンカの予察灯による誘殺数は、長沼町及び比布町で平年より多く、北斗市では平年よりやや少なかった。予察田におけるすくい取り成虫数は、長沼町では平年並、比布町で平年より多く、北斗市では平年よりやや多かった。

セジロウンカの予察灯による誘殺数は、長沼町及び北斗市で平年並だった。比布町では誘殺が認められなかった。予察田におけるすくい取り成虫数は、長沼町及び北斗市で平年より少なかった。比布町では捕獲されなかった。

一般田における8月3半旬の巡回調査によると、全75地点のうち、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数が吸汁害の発生する密度(成虫：1,800頭、または幼虫：900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り成虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	765	84.6	267	450.1	21	25.0	92.5	8.1	0	126.8	5.0	10.5
2半旬	254	151.8	20	436.9	5	15.3	20.0	14.3	15.0	56.9	20.0	17.0
3半旬	4	178.6	2	138.1	0	14.6	67.5	41.5	265.0	71.5	17.5	11.8
4半旬	11	126.7	13	329.3	5	45.5	35.0	28.0	195.0	123.5	15.0	21.5
5半旬	712	146.3	2454	1311.4	115	26.1	70.0	116.8	380.0	492.8	60.0	33.8
6半旬	1281	222.8	18895	5389.0	99	437.4	30.0	141.9	1180.0	699.5	42.5	58.3
平年数	10		10		10		9		10		10	

セジロウカ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	19	2.4	0	6.3	12	85.1	0	5.4	0	1.5	2.5	7.3
2半旬	18	8.6	0	4.3	5	29.0	0	1.0	0	0.8	0	16.5
3半旬	0	22.5	0	5.4	0	24.1	1.3	2.0	0	0	0	17.5
4半旬	0	33.2	0	13.1	4	92.7	0	1.9	0	4.5	0	25.8
5半旬	8	16.3	0	25.3	63	40.4	0	2.6	0	3.3	5.0	21.3
6半旬	28	5.0	0	6.9	89	27.5	0	6.2	0	2.8	22.5	32.8
平年数	10		10		10		9		10		10	

巡回調査によるヒメトビウカ成幼虫の20回振り水田すくい取り虫数

普及センター	地点数	8月3半旬		普及センター	地点数	8月3半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	7	8.6	2.5	渡島	本所	3	1.0	6.7
	南東部	2	24.5	39.0		檜山	本所	2	0
	南西部	3	30.7	0	北部		2	0	5.5
	中空知	4	3.3	1.5	上川	本所	7	15.0	17.6
	北空知	7	0.3	0.4		富良野	2	9.5	1.0
石狩	本所	3	2.7	0.6		大雪	4	7.5	5.8
	北部	7	1.9	0	士別	2	0	0	
後志	本所	4	0	0	名寄	3	25.3	0	
胆振	東胆振	4	4.3	0	留萌	本所	4	0	27.5
日高	西部	3	0	0.3		南留萌	2	0	0

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 やや多 <7月28日付け注意報第7号>

予察灯による誘殺数は、長沼町で平年よりやや少なく、比布町で平年よりやや多く、北斗市では平年より多かった。予察田におけるすくい取り成虫数は、長沼町及び北斗市で平年並、比布町では平年より多かった。一般田における8月3半旬の巡回調査によると、全75地点のうち、水田すくい取りによる成幼虫の捕獲数が、発生モニタリングによる追加防除の基準である捕獲数1頭（「ななつぼし」）以上となったのは、空知、石狩、上川、留萌地方の計8地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における水田すくい取り虫数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り成虫数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	997	706.8	156	24.0	207	67.2	18.8	1.0	0	1.0	5.0	5.0
2半旬	170	480.9	5	31.4	50	42.2	7.5	2.9	0	0	5.0	3.0
3半旬	21	345.3	3	29.6	2	45.8	2.5	4.7	0	0.5	0	2.5
4半旬	13	224.5	4	16.8	60	37.0	0	3.6	5.0	0.5	0	1.8
5半旬	101	157.1	18	17.6	193	41.4	0	5.3	5.0	0	2.5	2.0
6半旬	97	100.6	26	21.5	87	27.0	0	4.2	20.0	3.3	0	1.0
平年数	10		10		10		9		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソドリカスミカメ成幼虫の20回振り水田すくい取り虫数

普及センター	地点数	8月3半旬		普及センター	地点数	8月3半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	7	0.1	0.2	渡島	本所	3	0	0.3
	南東部	2	0	0.5	檜山	本所	2	0	0
	南西部	3	0.3	0.3		北部	2	0	0
	中空知	4	0.8	0	上川	本所	7	0	0
	北空知	7	0	0		富良野	2	0	0
石狩	本所	3	0.3	0.2		大雪	4	0	0
	北部	7	0	0.1	士別	2	0	0	
後志	本所	4	0	0	名寄	3	1.3	0	
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	4	1.8	0
日高	西部	3	0	0		南留萌	2	0.5	0

6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による誘殺数は、長沼町及び比布町で平年より少なかった。北斗市では誘殺が認められなかった。第2～3回幼虫による予察田の被害葉率は、長沼町で平年並、比布町で平年より低く、北斗市では平年よりやや高かった。

フタオビコヤガ成虫の予察灯による誘殺数および予察田における被害状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1	50.8	5	423.1	0	22.8	2.7	4.5	0	5.7	0.5	0.1
2半旬	2	145.9	0	206.5	0	19.5	2.1	4.5	0.5	6.9	0.6	0.1
3半旬	0	91.7	0	156.1	0	7.4	4.6	4.5	1.3	7.7	0.7	0.1
4半旬	0	28.5	2	49.2	0	2.1	6.3	4.7	2.0	10.6	0.6	0.1
5半旬	0	8.3	0	11.3	0	0.9	2.3	5.2	3.4	13.0	0.5	0.2
6半旬	0	3.3	0	4.8	0	0.8	5.4	4.8	6.1	15.1	0.4	0.3
平年数	10		10		10		9		10		10	

秋まき小麦ではなまぐさ黒穂病の防除をしましょう

秋まき小麦に発生するなまぐさ黒穂病に対しては、適期に適切な深さでの種、イプロナゾール・イミノクタジン酢酸塩水和剤Fの5ml/乾燥種子1kg 種子塗沫処理、10月下旬から11月中旬でのフルアジナム水和剤F1000倍液の散布を組み合わせることにより発生を抑えることが可能です。

本病の汚染は全道の小麦栽培地域に広がっていると考えられるので、これまで発生が確認されていない地域においても、適期、適深は種に加え、フルアジナム水和剤F1000倍液の10月下旬から11月中旬の適期散布を実施してください。また、無人ヘリ防除実施地域では、プロピコナゾール乳剤8倍液の11月上旬から中旬散布で対応してください。

令和3年産秋まき小麦では、令和2年の根雪前にフルアジナム水和剤Fの散布を実施していなかったほ場において、なまぐさ黒穂病の発生事例が多く確認されています。

秋まき小麦を栽培している地域においては、なまぐさ黒穂病の対策をお願いします。

なお、フルアジナム水和剤Fの根雪前散布は、雪腐病防除としても有効です。

B. とうもろこし

1. アワノメイガ 発生量 多

北斗市におけるフェロモントラップによる誘殺数は平年より多かった。

フェロモントラップによるアワノメイガ成虫の誘殺数

月・半旬	北斗市	
	本年	平年
8月1半旬	5	0.4
2半旬	6	1.4
3半旬	28	2.0
4半旬	29	2.5
5半旬	5	10.3
6半旬	8	7.5

注) 平年数は10年

2. オオタバコガ 発生量 並

フェロモントラップによる誘殺数は、比布町及び北斗市で平年よりやや多かった。その他の地点では8月中の誘殺は認められなかった。

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	2.1	3	1.4	1	0.2	0	0	0	0.3
2半旬	0	5.6	2	2.1	1	0	0	0	0	0.7
3半旬	0	2.2	4	1.3	0	0.1	0	0	0	0.2
4半旬	0	1.2	0	0.4	0	0.2	0	0	0	0
5半旬	0	1.7	0	0	3	0.3	0	0	0	0
6半旬	0	0.9	2	0.4	1	1.6	0	0	0	0.3
平年数	9		8		6		6		6	

C. 豆類

1. べと病(大豆) 発生期 遅 発生量 少

長沼町の予察ほにおける初発期は、8月22日と平年(7月17日)より遅く、発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	0	18.8	0	20.9	0	23.4	10

2. わい化病(大豆) 発生量 少

予察ほにおけるわい化病の発生量は、長沼町及び訓子府町のいずれも平年より少なかった。

予察ほにおける大豆のわい化病の発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	発病株率(%)		平年数
		本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	24.0	47.0	10
訓子府町	トヨコマチ	12.0	50.3	10

3. 菌核病（菜豆） 発生量 少

芽室町の予察ほにおける菌核病の発生量は、平年より少なかった。

予察ほにおける菜豆の菌核病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	1.0	9.2	1.0	13.5	1.0	14.4	10

4. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生量 少

長沼町の予察ほ（小豆）における灰色かび病の発生量は平年より少なく、芽室町の予察ほ（菜豆）においても平年より少なかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査では、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおける小豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	0.5	1.1	2.0	3.6	1.0	5.2	10

予察ほにおける菜豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	1.4	11.6	3.9	16.6	3.9	17.2	10

一般ほにおける小豆の灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			8月3半旬					8月3半旬	
			本年	前年				本年	前年
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	0	2.0
後志	本所	2	0	0	網走	本所	2	0	0
胆振	本所	2	0	0	網走	網走	2	0	0
	東胆振	3	0	2.7	美幌	美幌	3	0	1.7
檜山	本所	2	0	1.5	十勝	本所	5	0.6	1.0
	北部	1	0	0		東部	6	0	0
上川	富良野	2	0	0		東北部	4	0	2.0
	大雪	3	0	2.0		北部	3	1.7	0
	士別	1	0	0		西部	3	0	0
					南部	3	0	0	

5. マメシクイガ 発生期 早 発生量 少

フェロモントラップによる成虫の初誘殺日は、長沼町、比布町、北斗市及び訓子府町で平年より早く、芽室町では平年よりやや早かった。誘殺数は、いずれの地点においても平年より少なかった。

予察ほの大豆における産卵初発期は、長沼町、芽室町ともに平年よりやや早かった。産卵数は、両地点とも平年より少なかった。

マメシクイガのフェロモントラップによる誘殺数と初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	8	22.8	26	44.4	0	1.4	9	15.0	2	2.3
2半旬	16	25.8	4	36.6	2	9.0	5	15.7	0	3.4
3半旬	5	27.3	0	14.1	0	8.9	2	17.8	2	6.3
4半旬	5	19.2	2	5.6	0	15.2	0	13.0	0	7.4
5半旬	5	16.0	1	2.3	2	14.4	4	7.7	2	3.7
6半旬	21	4.2	0	0.6	4	9.5	0	3.1	6	3.6
初誘殺日	7月18日	7月24日	7月11日	7月18日	7月23日	8月6日	7月22日	7月25日	7月27日	8月5日
平年数	10		10		10		10		10	

予察ほの大豆におけるマメシクイガの産卵状況

月・半旬	長沼町		芽室町	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1	2.3	0	1.3
2半旬	0	10.5	0	6.9
3半旬	3	17.5	0	11.7
4半旬	7	28.0	0	17.7
5半旬	6	30.2	2	9.1
6半旬	10	12.5	3	2.2
初発期	8.Ⅰ	8.Ⅱ	8.Ⅰ	8.Ⅱ
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの卵数

注2) 品種は「トヨムスメ」

6. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほの大豆及び小豆の食害程度は、長沼町で平年並、訓子府町では平年よりやや高かった。

予察ほにおける大豆および小豆の食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	25	36.9	25	28.1	10	19.6	19	12.9
2半旬	25	41.5	27	29.7	12	19.9	18	15.4
3半旬	29	44.0	33	31.3	19	21.8	22	17.4
4半旬	32	45.2	41	32.0	24	22.9	25	19.2
5半旬	32	46.9	42	32.6	26	24.2	25	20.8
6半旬	32	48.5	41	34.3	27	24.4	26	22.0
平年数	10		10		10		9	

D. ばれいしょ

1. 疫病 発生量 やや少

＜7月6日付け注意報第3号＞

予察ほの「とうや」における疫病の発生量は、芽室町では平年並だった。長沼町及び訓子府町では発生を認めていない。

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月1半旬		8月3半旬		8月5半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	とうや	0	42.0	0	52.9	0	52.9	10
	スノーマーチ	0	35.1	0	50.1	0	60.9	10
北斗市	とうや	-	51.8	-	52.6	-	-	10
芽室町	とうや	-	73.2	-	80.6	-	80.6	10
	スノーマーチ	63.5	73.1	67.0	76.1	79.0	80.9	10
訓子府町	とうや	0	67.5	0	72.4	-	72.4	10
	スノーマーチ	0	56.1	0	73.1	0	73.1	10

注) -: 茎葉の枯凋により調査不能、または調査時期外

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、芽室町で平年並だった。長沼町及び訓子府町では発生が認められなかった。ワタアブラムシの発生量は、芽室町で平年並、長沼町及び訓子府町では平年より少なかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点でも発生が認められなかった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	0	1.4	0	0.7	0	2.1	0	1.0	0.5	35.9
2半旬	0	0	0.5	0	0	0.2	0	0.4	0	0	0.5	23.8
3半旬	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0.7	1.5	0.4	0	27.1
4半旬	0	0	1.5	0	0	0.2	0	0.2	1	0	0	10.9
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 品種は「スノーマーチ」

注2) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。

E. てんさい

1. 褐斑病 発生量 やや少

<7月12日付け注意報第5号>

予察ほにおける発生量は、長沼町の「あまいぶき」では平年よりやや多く、芽室町の「あまいぶき」では平年よりやや少なかった。訓子府町の「ライエン」では平年より少なかった。

一般ほにおける巡回調査の結果では、全道的に発生は認められたが、発病株率が50%を超えたほ場は認められなかった。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	あまいぶき(“弱”)	27.6	18.4	43.6	33.8	55.2	54.9	6
	ライエン(“やや強”)	12.4	11.0	37.6	23.2	46.8	38.2	10
芽室町	あまいぶき(“弱”)	13.2	23.4	22.0	34.9	36.0	52.3	6
	ライエン(“やや強”)	6.0	16.9	21.6	25.7	24.8	35.1	8
	スタウト(“強”)	4.8	17.8	21.2	25.7	22.4	37.7	9
訓子府町	ライエン(“やや強”)	2.0	14.3	10.0	25.9	23.2	39.3	10

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			8月3半旬		8月6半旬	
			本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	3.0
石狩	本所	3	0.3	1.7	7.7	14.3
後志	本所	3	0	1.3	6.0	10.7
胆振	本所	4	6.0	3.0	13.0	20.3
	東胆振	3	0.7	0	2.0	7.7
上川	富良野	3	0	0	0	0
	大雪	3	0	0	0	0
	士別	2	0	6.0	0	2.0
	名寄	2	0	0	0	0.5
網走	本所	9	0.1	0.5	1.7	0.8
	清里	6	0	0	0	0
	網走	2	0	6.0	1.0	10.5
	美幌	5	0	0	2.6	0
	遠軽	3	1.3	2.0	6.3	10.7
十勝	本所	7	2.0	0	5.0	0
	東部	5	0.2	0.2	2.6	0.2
	東北部	4	1.3	2.0	13.5	5.5
	北部	3	0	0	0.7	3.3
	西部	3	0.7	1.0	3.3	3.0
	南部	3	0	0	5.7	18.0

2. ヨトウガ（第2回） 発生期 並 発生量 並

予察灯による第2回成虫の初発期は、訓子府町で平年より早く、比布町及び芽室町で平年よりやや早く、長沼町、北斗市及び滝川市では平年より遅かった。誘殺数は、芽室町及び訓子府町で平年より多く、北斗市で平年並、長沼町で平年よりやや少なく、滝川市では平年より少なかった。比布町では誘殺が認められなかった。

予察ほにおける産卵初発期は、長沼町で平年よりやや遅く、芽室町では平年よりやや早かった。訓子府町では卵塊が認められなかった。食害程度は、長沼町及び訓子府町で平年並、芽室町では平年よりやや高かった。

一般ほにおける8月6半旬の巡回調査によると、全74地点のうち、防除の基準となる被害株率50%以上となった地点は認められなかった。

ヨトウガ成虫の予察灯による誘殺数と第2回初誘殺日

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	0	0.5	0	0.2	0	0.1	1	0	0	0.2
2半旬	0	2.2	0	0.7	0	0.4	1	0.2	1	1.2	0	1.4
3半旬	0	1.1	0	2.3	0	0.2	3	0.9	3	1.5	0	1.2
4半旬	0	1.2	0	1.9	0	0	1	1.6	9	0.8	0	1.3
5半旬	1	1.1	0	1.0	0	0.2	4	0.9	2	1.4	1	0.7
6半旬	1	0.3	0	0.5	1	0	2	0.3	0	0.4	0	0.8
初誘殺日	8月22日	8月7日	7月30日	8月4日	8月29日	8月4日	8月10日	8月13日	8月1日	8月14日	8月22日	7月31日
平年数	10		10		10		10		10		5	

予察ほにおけるヨトウガの産卵および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.6	0	0.3	0	0	36	60.1	38	34.8	20	26.6
2半旬	0	1.1	1	0.9	0	0.5	37	57.7	40	34.7	25	27.8
3半旬	1	1.7	0	1.8	0	1.2	35	58.1	38.5	34.3	28	28.4
4半旬	1	1.5	2	2.3	0	0.6	43	53.8	46	34.7	30	29.4
5半旬	0	1.7	0	2.6	0	0.5	44	50.8	43	35.4	30	31.5
6半旬	0	0.5	0	1.3	0	0.8	52	52.6	50	36.8	33	34.0
初発期	8.Ⅲ	8.Ⅱ	8.Ⅱ	8.Ⅲ	-	8.Ⅲ						
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率(%)

普及センター	地点数	8月6半旬		普及センター	地点数	8月6半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	南東部	1	0	網走	本所	9	4.0		
		0	0			6.7			
石狩	本所	3	0	網走	清里	6	10.7		
		12.3				17.3			
後志	本所	3	2.3	網走	美幌	2	13.0		
		2.7				15.0			
胆振	本所	4	5.0	網走	遠軽	5	0.6		
		2.3				0			
胆振	東胆振	3	4.0	十勝	本所	7	6.0		
		12.0				3.9			
上川	富良野	3	1.3	十勝	東部	5	2.4		
		9.3				2.7			
		3	4.0			十勝	東北部	4	25.5
		15.0						9.0	
2	1.0	十勝	北部	3	0				
31.0				0					
上川	名寄	2	5.0	十勝	西部	3	6.0		
		42.5				6.0			
				十勝	南部	3	8.7		
						4.0			

F. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 やや多

長沼町の予察ほにおけるだいこんの軟腐病の発生量は初夏播き作型では平年よりやや多かった。夏播き作型では発生が認められていない。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
			8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	耐病総太り	初夏播き	0	2.8	9.5	8.3	18.0	9.9	10
	耐病総太り	夏播き	-	-	0	0	0	0.4	10

注) - : 調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 少

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町及び北斗市で平年より少なかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査によると、全9地点のうち、上川地方の2地点でモンシロチョウが優占種であったものの、食害程度は高くなかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	-	1.3	38	36.0
2半旬	1	13.1	34	70.7
3半旬	1	19.0	3	90.1
4半旬	9	18.0	2	43.2
5半旬	1	17.3	7	17.7
6半旬	0	16.2	11	7.6
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの寄生虫数。

注2) -は調査不能

3. コナガ 発生量 少

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、比布町、芽室町及び滝川市で平年並、訓子府町で平年よりやや少なく、長沼町及び北斗市では平年より少なかった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町及び北斗市で平年より少なかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査によると、全9地点のうち、石狩及び上川地方の計2地点でコナガが優占種であったものの、食害程度は高くなかった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	58	65.1	1	9.2	13	57.1	2	2.2	0	2.4	0	2.6
2半旬	19	70.7	5	4.2	23	32.9	0	2.6	0	2.1	3	1.4
3半旬	10	60.8	7	7.0	1	22.8	2	1.6	0	1.6	4	4.0
4半旬	23	53.3	2	3.2	5	27.4	0	1.4	0	2.1	1	1.2
5半旬	19	35.0	1	1.2	6	14.7	0	0.8	0	1.9	1	0.8
6半旬	7	29.0	0	0.8	6	6.6	1	1.0	3	1.4	0	0.6
平年数	10		5		10		10		10		5	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺。比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺。訓子府町は雑草地。

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	-	1.3	4	47.1
2半旬	0	6.3	4	54.0
3半旬	0	18.0	1	35.5
4半旬	1	20.3	1	9.0
5半旬	9	16.4	3	6.3
6半旬	2	8.6	0	9.9
平年数	10		10	

注1) 10株あたりの寄生虫数。

注2) -は調査不能

4. ヨトウガ (第2回) 発生量 並

予察灯による第2回成虫の誘殺数は、芽室町及び訓子府町で平年より多く、北斗市で平年並、長沼町で平年よりやや少なく、滝川市では平年より少なかった(てんさいの項参照)。

予察ほのキャベツにおける産卵は、長沼町及び北斗市において認められなかった。

一般ほにおける8月3半旬の巡回調査において、全9地点のうち、ヨトウガが優占する地点はなかった。

G. りんご

1. 黒星病 発生量 並

予察園における発生量は、長沼町(無防除)の「昂林」及び「ふじ」のいずれの品種とも平年より多かった。一方、余市町の予察園(慣行防除)では発生が認められていない。

巡回調査の報告によると、一般園では発生が認められていない。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	96.0	54.8	77.9	33.5	10
	ふじ	91.3	77.6	74.1	51.5	4
余市町(慣行防除)	昂林	0	-	0	-	-

注1) 長沼町は8月6半旬、余市町は8月第5週のデータ

注2) -: 調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター	地点数	病葉率(%)		
		8月3半旬		
		本年	前年	
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	2	0	0
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における発生量は平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められなかった。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島地方の感受性品種で発生が認められている。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	2.7	4.2	0.06	0.09	10
	王林(徒長枝)	4.8	5.1	0.10	0.10	10
余市町(慣行防除)	昂林(徒長枝)	0	-	-	-	-

注1)長沼町は8月6半旬、余市町は8月5週目のデータ

注2) - : 調査対象外または平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	2.0	15.0
留萌	南留萌	1	0	51.0

3. ハマキムシ類 (第2回) 発生期 やや早 発生量 並

予察園におけるリンゴコカクモンハマキ(第2回)のフェロモントラップでの初発期は、長沼町で8月9日(平年:8月14日)と平年よりやや早かった。誘殺数は、長沼町で平年並、余市町Aで平年よりやや少なく、余市町Bでは平年より少なかった。

幼虫による被害新梢率は、長沼町で18.0%(平年:4.8%)と平年より高かった。余市町A(平年:0.1%)及び同町B(平年:0.0%)では被害は認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、岩見沢市及び札幌市で平年より多く、旭川市で平年よりやや多く、石狩市、壮瞥町及び七飯町で平年並だった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	0.5	0.2	0.3	0.8
2半旬	0	0.9	1.3	1.2	0.6	1.9
3半旬	8.0	2.6	0.3	1.4	0.1	1.4
4半旬	0	1.6	0	0.7	0	1.2
5半旬	0.2	0.9	0	0.7	0	1.1
6半旬	0.8	0.5	0	1.0	0	1.3
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0.3	0.1	1.3	0.4	0	0	0.7	0.0	0	0.3	5	0.4
2半旬	0.5	0.3	3.1	0.4	0	0.0	0.7	0.1	0	0.8	3	2.0
3半旬	2.5	0.3	9.3	0.5	0.5	0.4	0.7	0.3	0.8	0.8	0	1.1
4半旬	3.8	0.3	17.9	1.4	0.5	0.1	0.3	0.2	0.2	0.9	3	0.9
5半旬	0	0.0	5.7	2.9	1	0.7	0	0.1	0.1	1.4	0	0.6
6半旬	0	0.2	3.3	3.2	0	0.9	0	0.8	0.9	1.5	0	0.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

4. モモシンクイガ 発生量 多

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年より多く、余市町Bで平年並、余市町Aでは平年より少なかった。長沼町の予察園における産卵数は平年よりやや多く、被害果率は平年よりやや高く推移した。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、岩見沢市、札幌市、壮警町及び旭川市で平年より多く、七飯町では平年よりやや少なかった。

予察園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	177.0	123.7	17.7	55.7	54.6	62.2	179	113.6	100	94.3
2半旬	185.0	60.4	20.6	47.1	51.9	52.7	127	68.4	100	97.4
3半旬	21.0	37.2	6.8	38.8	40.4	50.7	73	48.3	100	97.0
4半旬	66.7	28.1	6.0	33.7	35.6	41.4	14	76.6	100	99.0
5半旬	149.1	30.1	10.0	21.8	39.3	33.1	47	90.7	100	99.1
6半旬	126.3	27.9	22.3	20.3	71.1	43.9	182	70.9	100	100.0
平年数	10		10		10		10		10	

注) 産卵数は100果調査。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		壮警町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	46.6	9.9	44.2	16.2	19.4	6.8	69.6	75.9	76.7	51.7
2半旬	22.0	6.3	40.1	11.8	31.4	5.2	7.9	77.4	63.0	32.2
3半旬	10.3	2.7	45.3	10.1	14.3	7.9	5.6	70.5	3.0	24.4
4半旬	2.5	2.4	52.1	12.9	23.3	7.4	19.5	38.1	33.0	17.6
5半旬	12.1	1.3	64.3	12.6	26.6	9.3	25.2	29.4	84.0	16.3
6半旬	8.9	0.8	77.7	13.1	18.9	15.4	40.3	31.3	90.0	18.0
平年数	10		10		10		10		10	

5. ハダニ類 発生量 リンゴハダニ：少、ナミハダニ：並

予察園において、いずれの地点でもリンゴハダニの発生は認められなかった。ナミハダニは、長沼町及び余市町Aで平年より少なく、余市町Bでは平年より多かった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.4	0	2.1	0	0.4	0	0.3	0	4.3	40	0.1
2半旬	0	1.0	-	1.0	-	1.7	0	3.9	-	14.0	-	2.3
3半旬	0	1.5	0	0.5	0	0.8	0	0.9	1	1.6	63	6.3
4半旬	0	1.0	0	0.6	0	1.0	0	0.3	0	2.3	12	45.3
5半旬	0	2.1	-	0.6	-	4.9	1	2.3	-	3.6	-	4.4
6半旬	0	2.2	0	0.1	0	0.6	0	1.4	2	0.8	49	5.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 30葉あたりの寄生虫数。

6. キンモンホソガ 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町、余市町A及び同町Bで平年より少なかった。予察園における被害葉率は、長沼町で平年よりやや低かった。余市町A及び同町Bでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、札幌市で平年並、岩見沢市、七飯町及び増毛町では平年より少なかった。石狩市、壮瞥町及び旭川市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数および被害葉率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	-	15.5	14.0	104.2	8.8	156.8	1.8	3.8	0	0.2	0	0.2
2半旬	8.0	24.1	27.5	97.4	15.6	93.9	2.0	5.4	-	0.3	-	0.1
3半旬	7.0	16.7	24.8	102.8	7.1	90.5	3.0	5.6	0	0.3	0	0.3
4半旬	17.3	25.8	22.5	102.2	7.1	55.9	1.8	7.9	0	0.2	0	0.1
5半旬	6.3	32.2	25.1	90.3	12.0	49.8	3.8	9.9	-	0.4	-	0.1
6半旬	8.9	55.1	48.0	105.8	30.9	66.1	1.8	10.1	0	0.3	0	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

注2) 長沼町のーは欠測。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	2.1	24.9	4.3	0.5	0	13.5	0	115.5	2.5	59.5	0	0.4	9.0	45.9
2半旬	2.0	20.8	1.8	0.9	0	22.7	0	103.6	0	116.4	0	2.2	46.0	109.7
3半旬	1.2	19.6	0.4	1.5	0	29.3	0	123.8	0	108.5	0	1.7	27.5	170.1
4半旬	0.6	10.4	0	1.3	0	25.2	0	163.3	1.5	79.4	0	0.7	30.5	236.9
5半旬	2.9	3.0	2.1	1.6	0	43.9	0	141.5	1.5	184.5	0	0.3	50.0	273.5
6半旬	5.1	2.5	1.9	1.8	0	45.4	0	114.2	0	145.6	0	1.7	46.0	333.5
平年数	10		10		7		10		10		10		10	

翌年の病害虫の発生を抑制するため、収穫残さ等を適正に処理しましょう！

・水稲のいもち病

水稲いもち病の第一次伝染源は、保菌種子と前年の被害わらや籾殻で、これらは本田における葉いもちの早期多発の原因となります。そのため、本田の被害わらは圃場外に搬出し、堆肥化するなど完全に処理しましょう。育苗ハウス内及びその周辺の籾殻は放置せず、衛生管理を徹底しましょう。

・施設内のモモアカアブラムシ等越冬害虫

平成27年に実施した冬期間のビニールハウス内での発生調査において、収穫残さや床土、使用予定の育苗用土に生じた雑草などに、モモアカアブラムシの発生が認められました。施設内で越冬しているモモアカアブラムシは、春以降ほ場に飛来し、てん菜の黄化病（旧：西部萎黄病）の病原ウイルスの媒介に関与していることが示唆されています。このほかにもアシグロハモグリバエ、ミカンキイロアザミウマなど、露地では越冬することの出来ない害虫は、施設内で越冬しています。そのため、冬期間には、施設内の葉菜類などの収穫残さ、雑草などを適正に処分しましょう。

・アスパラガスのツマグロアオカスミカメ

ツマグロアオカスミカメは、アスパラガスの出芽期に、収穫する若茎にすじ状の傷や曲りを生じさせたり、茎の先端を壊死させたりすることで商品価値を損ねます。本種はアスパラガスの茎葉部に産み付けられた卵で越冬します。越冬した卵からふ化した幼虫が春季に被害を及ぼすことから、本種の被害への対策として、秋季の茎葉黄変後に茎葉をほ場外に搬出することが効果的です。

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課 (TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所 (TEL0123-89-2080)

または最寄りの(総合)振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>)をご覧ください。